

ライフケアガーデン湘南 看護2階

症例概要 利用者氏名：90代 男性 要介護5

利用期間：令和2年 7月 ～ 現在

経過：脳梗塞をきっかけに県内の有料老人ホームに入居。2020年5月頃に麻痺性イレウスを繰り返し入院。ストマの造設を勧められるが手術に消極的。毎日の医療行為が前施設では難しく、当施設に辿り着き入居となる。入居後、毎日腸洗浄を行いイレウスの予防に努めたが、偽イレウスを引き起こしストマ造設となる。

内 容

2020年5月頃より偽イレウスを繰り返し入院となる。ご家族がおらずキーパーソンは甥御さん。ご本人も甥御さんもストマ造設は拒否され、延命につながると医療には消極的だった。

毎日の腸洗浄と脱気をしてくれる施設を探していたが、なかなか見つからず24時間看護師が常駐し、往診医と病院の連携もある当ホームを知り、同年7月入居の運びとなった。

入居当日から午後2時に腸洗浄施行。微温湯300mlを数回に分けて注入し、看護師二人で腹部マッサージを行い排便排ガスを排出。腹部を圧迫すると痛みが生じ苦痛に歪んだ表情が良く見られた。看護師が二人で対応出来ないときは介護士にサポートを依頼し協力を得て、スムーズにケアを提供する事が出来ていた。

当ホームでの生活があったのか、ぼったりしていた腹部は消失し、食欲旺盛、イレウスも起こすことなく順調に経過し、ご家族からは感謝のお言葉を頂く事が多かった。

しかし入居して10か月を迎える頃(2021年4月)、腸軸捻転を引き起こし1週間に3回も救急搬送することになった。救急医からは今後かなりの頻度で繰り返す。腸を一部切除するかストマを造設するか外科的処置を提案されることとなった。

以前は延命治療を望まれず自然な形で年を老いて行くことを望まれていたが、当ホームに来てからの叔父の元気な姿を見ていたら、考えが変わったと仰りストマ造設を決意された。今ではストマを5月に造設し、より一層元気に過ごされている。(毎日の腸洗浄からは解放され間違いなく苦痛を取り除くことが出来たのではないかと思う。)

私たち職員が日々入居者さんへその人らしい寄り添ったケアをしてきたことが、甥御さんの気持ちを変

えることにつながったのではないかと思います。時には延命を望まれ外科的手術が生命の危機を脅かす事態も多い中、今回のケースでは最適な時期に最適な選択が出来たのではないかとと思われる。ご家族がストマ造設を決意されたのも、協力病院や施設との信頼の構築が一番の要因であったと考える。これからも入居者さん・ご家族からの信頼に応えられるサービスを提供していこうと思う。